

氏名（本籍） 三浦 麻葉（東京都）
 学位の種類 博士（音楽）
 学位記番号 乙第3号
 学位授与年月日 平成29年3月18日
 学位授与の要件 学位規則第4条第2項
 学位論文題目 C.ドビュッシーの管弦楽作品におけるハープ
 ーその使用及び機能の研究

学位論文等審査委員

（総合審査）	委員長	教授	吉成 順	
		教授	永峰 高志	
		教授	福田 隆	
		教授	久保田 慶一	
		教授	横井 雅子	
		准教授	中溝 一恵	
（演奏審査）	委員長	教授	吉成 順	
		教授	永峰 高志	
		教授	福田 隆	
		教授	中島 大之	
			松井 久子	（東京藝術大学講師）
（論文審査）	委員長	教授	吉成 順	
		教授	久保田 慶一	
		教授	横井 雅子	
		准教授	中溝 一恵	
			遠山 菜穂美	（東邦音楽大学教授）

審査結果の要旨

審査所見

学位審査委員会は、申請者 三浦 麻葉の学位審査修了リサイタルならびに学位申請論文に関して厳正な審査を行った。以下に、1. 演奏審査、2. 論文審査、3. 総合審査、に関する所見を記す。

1. 演奏審査

学位審査修了リサイタルは、C.ドビュッシー《2つの舞曲》、M.ラヴェル《序奏とアレグロ》、H.ルニエ《いたずら小鬼の踊り》、C.ドビュッシー《3重奏ソナタ》という曲目で、論文のテーマであるドビュッシーを中心に同時代のハープ作品を配しており、歴史的にも音楽的にも一貫し、技巧的にも難易度の高い意欲的なものであった。演奏に対しては、音色が美しい、曲の色彩感がよく表現できている、安定している、正確でまじめ、といった評価が与えられ、とくにラヴェルの生き生きとした表現が高く評価される一方、やや堅い、もう少し柔軟な表現が欲しい、といった声も聴かれたが、総じて響きの美しさ、安定感、真摯な演奏態度などへの評価は揺るぐことがなく、今後の活躍も期待されることから、審査員全員一致で合格となった。

2. 論文審査

論文は「C.ドビュッシーの管弦楽作品におけるハーブ ― その使用及び機能の研究」という題で、ドビュッシーの全管弦楽作品におけるハーブの用例をくまなく調べ、個々の用例について奏法、用法、機能という観点から分析する、というもので、演奏者としての関心と直結したテーマ設定、用例を網羅的に集めていて漏れがない点、などにオリジナリティと研究の意義が認められる。先行研究への批判と独自の問題設定、音楽研究の新しい動向への関心、音楽史的背景への目配りなど、研究姿勢の上でも評価できる点が多い。とりわけ網羅的であることの資料的価値は高く、今後あらゆるハーブ奏者にとって良き参考文献となる労作であることは間違いない。こうしたことから、審査員全員の一致で合格とした。

3. 総合審査

演奏者ならでの関心から生まれたテーマに真摯にかつ丁寧に取り組み、その成果を演奏に還元する、という作業は、演奏領域の博士研究として理想的なものと言え、それを高い水準で実現したことは、きわめて好ましく、また評価に値する。今後は演奏者として経験を積むことで、さらに表現力豊かな演奏と、研究の深まりが期待される。以上の全体を審査し、高度な演奏能力と、それを支える研究能力を備え、自立した演奏家として活動できると総合的に評価し、「博士（音楽）」 Doctor of Musical Arts の学位を授与するに相応しいものと判定する。